

謹賀新年

あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい平成30年の新春を迎えられたことと存じます。

昨年4月に鳥羽市長となりまして早9か月を迎えようとしていきます。振り返ってみますと、まずふるさと納税ですが、ありがたいことに本年度も寄附額は順調に伸びつつあります。これは返礼品に多様な産品を取り揃えている鳥羽の特性ならではのと思っています。一昨年、伊勢志摩サミットがこの地で開催されたレガシー（遺産）や余韻が残っていることもひとつの理由だと思っています。

また、海外からの誘客に大事な要素は、気候・自然・文化・食材だと言われていますが、鳥羽はその4つ全てが揃った希有な観光地だと再認識したところでした。

他の自治体の首長の方々から言われることがあります。

「鳥羽市は羨ましいです。全国区ですから」というコトバです。これからもその優位性を活かしたまちづくりを進めてまいります。

さて、私は市長就任後、「RENOVATION（トボバ）鳥羽を再び、新しく」を今後4年間における市政のテーマとして位置づけ、実現に向けて走り出しました。今年度は、未来への種まき期間としていくつかの施策が動き出しています。まず、大規模ハード事業として、平成33年に開催されます三重とこわか国体で、

鳥羽市民体育館がフェンシング

会場となることから、改修業務

に着手しています。また、懸

案でありました消防署の高台移

転は、鳥羽東中学校横にて造成

工事が始まりました。その他、旧

鳥羽小学校の保存活用に向けて、耐震補強工事を実施していく予定です。

次に、ソフト事業としましては、前市長からの拡充施策として移住定住による人口減少対策に傾注していきます。実際、鳥羽なかまち会の活動や答志地域での離島留学事業など、地域の方々が自ら考えて行動を起こす事例も出てきました。また、地域おこし協力隊による地域活性化も少しずつ成果が出てきたと感じています。

その他、国の重要無形民俗文化財に指定された海女文化の保存継承を含む漁業の活性化、宿泊産業の雇用対策やインバウンド事業などの観光施策にも引き続き力をいれていく所存です。

本年も、市民力が向上し、市民の活躍の場があり、その暮らしに幸福感が持てるようなまちづくりに邁進してまいりますので、一層のお力添えをよろしくお願ひ申し上げ、新年のご挨拶といたします。

鳥羽市長
中村 欣一郎



新年、明けましておめでとございます。

市民の皆様におかれましては、清々しく希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、市議会の活動に対し、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

年頭に当たり、鳥羽市議会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、国においては「観光先進国」への新たな国づくりに向けた政策を展開し、観光立国実現に向けた訪日外国人旅行者の受け入れについて、環境整備を図ろうとしています。東京オリンピックが開催される2020年には、訪日外国人旅行者を4千万人とすることに向けて観光ビジョンが打ち出されました。

そのような中、鳥羽市においても、一昨年の伊勢志摩サミットを契機に、様々なインバウンド政策に取り組んできたところがあります。今後、益々増えるであろう訪日外国人旅行者の受け入れ態勢の充実はもちろんのこと、新たな観光資源の掘り起こしや更なる魅力発信に向け、漁観連携を通じた「観光立市鳥羽」として確かなものにしていく必要があります。

現在、鳥羽市では急激な人口減少と少子高齢化の流れの中、地方創生の長期ビジョンに基づいた「鳥

羽市まち・ひと・しごと総合戦略」に沿って様々な施策を進めているところであります。しかし、全国的にみても人口減少を食い止めることは容易ではない状況です。そんな中において、一歩一歩でも着実に前進できる施策を展開し、より多くの人々が幸せを実感できる鳥羽市になればと考えています。

いま市議会では、広報広聴活動の充実強化に向け「TOBAミライトーク」を実施し、これまで参加の少なかった若者層や子育て世代の方々など「テーマ」に沿った意見交換を行っています。様々な課題解決に向けた意見交換と情報共有の場に議員を派遣しますので、ぜひお申し込みいただければと思います。

今後におきましても引き続き議会改革を進めるとともに、地域や市民に密着した議会として役割と責任を果たしていく所存であります。

市民の皆様には、今後一層のご協力を申し上げますとともに、新年が皆様にとって実り多き年となりますことを祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

鳥羽市議会議長

浜口 一利

